

平成 22 年 1 月 25 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会



1 日 時 平成 22 年 1 月 25 日 ( 月曜日 )

午後 3 時 30 分から午後 4 時 40 分まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席委員

委員長 大橋 岑生 委 員 内藤 博子 委 員 羽賀 友信

委 員 中村 美和 教育長 加藤 孝博

4 職務のため出席した者

教育総務課長 押見 康雄 学務課長 武樋 正隆

学校教育課長 腮尾 理 子ども家庭課長 矢沢 康子

保育課長 若月 和浩 中央公民館長 葦澤 豊

中央図書館長 小野田 信子 科学博物館 山屋 茂人

教育センター所長 山岸 文夫 学校教育課主幹管理主事 星野 和人

学校教育課主幹兼管理主事 島倉 昭弘

5 事務のため出席した者

教育総務課庶務係長 新沢 達史 教育総務課庶務係 小川 瑞穂

## 6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第2号	長岡市北越戊辰戦争伝承館（仮称）検討委員会設置要綱の制定について
3	第3号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について

## 7 会議の経過

（大橋委員長） これより教育委員会1月定例会を開会する。

---

### 日程第1 会議録署名委員について

（大橋委員長） 日程第1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第44条第2項の規定により、羽賀委員及び加藤委員を指名する。

---

### 日程第2 議案第2号 長岡市北越戊辰戦争伝承館（仮称）検討委員会設置要綱の制定について

（大橋委員長） 日程第2 議案第2号 長岡市北越戊辰戦争伝承館（仮称）検討委員会設置要綱の制定について を議題とする。事務局の説明を求める。

（山屋科学博物館長） 長岡市北越戊辰戦争伝承館（仮称）検討委員会設置要綱について説明する。北越戊辰伝承館は戊辰戦争の事実を後世に語り継ぐため、関連資料の展示や学習機能を持つ施設として作りたいもの。場所は大黒町で、現在、農村公園を整備しており、その中に設置したいと考えている。その建築、展示や施設内容について検討をしてもうらため、検討委員会を設置するものである。制定案については、第1条に設置内容、第2条に任務、伝承館の基本構想、施設内容、展示内容等について検討すること、第3条に、委員の人数は10人以内とすることを定める。具体的に始めは7人を予定している。学識経験者が4人、地元住民が3人の予定である。第4条任期は3年とする。以下第8条までの要綱である。

（大橋委員長） 質疑、意見はないか。

(加藤教育長) 意見である。地域や地元が非常に戊辰戦争を後世に伝えたい気持ち、なんとかふさわしい場所にといい気持ちが強いであろう。地域の方が、私たちが知らない資料を持っている可能性がある。この機会に展示物として借りられるよう環境作りの話し合いをしてほしい。そのためにも学識経験者の立場で作っていくと研究施設のようにになってしまうため、地域の方の声を取り入れ、市民レベルでの観点を大事にしてほしい。河井継之助記念館が市民レベルで作ったため、見やすいと評判である。学識の観点では非常に硬くなる。観点を大事にしてほしい。もうひとつ要望であるが、検討委員会の設置要綱については、これから議決をいただくが、建物のできた後の運営、所管等も検討して欲しい。

(山屋科学博物館長) 建物は農村公園となるため、公園緑地課で作る。管理について、コミセンと一緒に進めており、市民ワークショップにて地元の方にも多く入っていただきながら検討もしている。管理も地元の方をお願いする方向で進めたい。

(羽賀委員) これで「戊辰戦争」が出て、「継之助」が出たが、「米百俵」がない。いろいろなところから米百俵についてどこに行ったらいいか聞かれる。せっかくの遺産が全国で知られているのにすべて小出しになってしまう。ぜひ、求心力になってまとめてもらい、市民からも資料を集めるなど、きっかけを作ってほしい。山本五十六記念館も戦災資料館もあるが個別。「米百俵」が長岡の中心にあればと思う。

(山屋科学博物館長) 我々も気にはしている。今回の学識経験者の中には、河井継之助記念館の稲川館長にも参加をしていただく。幸町庁舎への博物館の移転の際には、稲川館長の意見も取り入れながら「米百俵」も含めた教育関係資料の展示について検討したいと考えている。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。では、これより採決に移る。本件は原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって本件は原案のとおり決定した。

---

日程第3 議案3号 長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について

(大橋委員長) 日程第3 議案第3号 長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について を議題とする。事務局の説明を求める。

(押見教育総務課長) 被表彰者は金安理香さん、越路中学校3年生である。功績の内容は、「第53回日本学生科学賞中学の部」において、「ケヤキに造るトビイロケアリのシェルターの疑問」の研究を応募し、最高賞の内閣総理大臣賞を受賞された。長岡市教育委員会表彰基準で、表彰規則第2条第5号「全国規模の展覧会等で最高賞受賞」に該当する。内申者は越路中学校長である。日本学生科学賞について説明する。これは、1957年昭和32年に創設された。理科教育に基づく中学・高校生の公募コンクールとしては国内でもっとも伝統と権威のあるものである。毎年、都道府県ごとの地方審査で選ばれた優秀作品が全国大会である中央審査で審査される。第53回大会の中央表彰式は秋篠宮同妃両殿下ご臨席のもと昨年12月24日に開催された。主催は記載のとおりである。審査方法については、個人ごとに与えられたブースに自分の研究をポスター形式で展示し、中央審査委員が直接研究者に質問をする方法で審査される。その際、指導教諭は審査委員の質問に答えたり、生徒に助言を与えたりすることはできないとされている。この際、秋篠宮殿下にお言葉をかけてもらい、金安さんは質問に答えていたとのことである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(羽賀委員) すごく立派な研究で驚いた。今回のポスターのようなものをよその中学生に伝えるチャンスはあるのか。

(押見教育総務課長) まとめたものが冊子になる。

(内藤委員) 資料を読むと、非常にひかれる内容であった。金安さんの資料に山屋館長の名前が出てきたが、内容について説明してほしい。

(山屋科学博物館長) 今、プロの間でもア리가はやっている。アリは栽培を行う。たとえば、中南米にいるハキリアリは、菌糸を運び、きのこを収穫することがある。今回の研究のトビイロケアリは、よくいるアリで、おしりの先に毛があり、それが茶色い蔦の色をしているため、「トビイロケアリ」という。このアリもでんぷんをうまくつかい、菌類を発達させ、それで通路や住処を造っている。また、降水量が関係するが、雨が降っているときは菌糸が発達し、乾燥するとだめになってしまう。

それをうまく使って敵から逃れている。「菌糸とアリ」は現代風なプロの間ではやっている研究を、ちょっと変わった視点から研究したもので、非常に評価できる。栽培については、人間だけの行為であり、人間と動物の違いはそこにあるという感覚であったが、実際にはいろいろな動物がやっている。

(大橋委員長) このアリは、ケヤキ自体に害はないのか。

(山屋科学博物館長) むしろアリがいるとアブラムシやゾウムシを食べてくれる。ケヤキ自体が特殊な木で、でんぷん質を蓄えている。他の植物にはないような特殊性であり、そのあたりも含めて総合的に進化してきている。金安さんの研究はねらいがよかった。植物を見て、考えていった内容であろう。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。では、これより採決に移る。本件は原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって本件は原案のとおり決定した。

---

(大橋委員長) 本日の日程は終了する。次に協議報告に入る。12月議会における教育委員会関係の質問事項について、事務局から説明を求める。

(押見教育総務課長) 12月議会の一般質問には10人が出たが、うち教育委員会関係は5人であった。池田彌議員からは大きい項目として地域資源の保存、継承と活用について、八幡林遺跡についての質問であった。関充夫議員からは長岡市の公共施設の状況と今後の見通しについての質問の中で、教育施設の施設整備について考え方の質問があった。諸橋虎雄議員からはスクールバスの運行について質問があった。1点目は、文部科学省通知に基づく取り組みについて、2点目はスクールバス運行区域の拡充についての質問であった。笠井則雄議員からは公園等の遊具使用禁止問題について、現状と今後の考え方、それから工事がいつまでかかるのかという質問であった。丸山勝総議員からは1点目は国体終了後におけるスポーツ振興対策及びスポーツ行政の諸課題についてであった。2点目は学校・公園遊具の修繕についてであった。1

点目の質問では、3つあるスキー場を有効に小中学生のスキー授業に使い、体力の向上を図ったらどうかという内容であった。1点目の質問の中の2点目、グラウンドの芝生化による体力向上対策については、体力面での効果や、基礎体力向上につながると思うとの内容であった。さらに、芝生を管理するボランティア団体に対する具体的支援等について市の考え方について質問された。遊具の整備については、子どもたちの体力低下への影響等についての内容であった。続いて文教福祉委員会である。教育委員会関係質問について5人の委員から質問された。藤田委員は一つ目が図書館の利用について、二つ目は子どもの国語力について、これは事前に質問をしたいとの事であったが、実際には質問されなかった。三つ目は子育ての駅防災センター（仮称）の運営方針についてであった。加藤尚登委員は、一つ目は学校給食検討会議について、二つ目は小中学校教員の身分についてであった。大平委員からは、一つ目は保育所の現状と人材確保について、二つ目は児童虐待の実態について、三つ目は「子育て応援特別手当」について質問があった。家老委員は子ども会活動や親の育成会活動の充実について質問があった。松井委員からは市内小中学校のグラウンドについて、状況等の質問があった。

（大橋委員長） 質疑、質問はないか。

（中村委員） 文教福祉委員会における加藤委員の質問の中の「学校給食甲子園」とは何か。

（武樋学務課長） 学校給食の全国レベルの大会。県内では上越市の学校が優勝をした。その学校の栄養教諭の内容が新潟日報に掲載され、それを引用された。長岡市においても参加した。

（中村委員） それは任意か。

（武樋学務課長） 任意である。残念ながら、県内審査で終了した。

（大橋委員長） 他に質疑、質問がないようなので、次に川口町との合併の経過について、事務局の説明を求める。

（押見教育総務課長） 川口町との合併の経過について説明する。平成21年6月1日に長岡市・川口町任意合併協議会を設置し、これに基づき教育委員会事務局も事務レベルの合併協議を随時開催している。9月14日、川口町議会9月定例会、29日、長岡市議会9月定例会において、法定合併協議会の設置議案が可決され、これを受け



長岡市・川口町合併協議会が設置された。10月26日に合併協定調印式が長岡市役所で行われた。10月29日、川口町議会臨時会、11月13日長岡市議会臨時会において、廃置分合関連議案を可決した。11月18日県知事へ廃置分合を申請し、12月18日に県議会が廃置分合議案を可決、これに伴い12月21日に県知事が廃置分合を決定、総務大臣に届け出をした。平成22年1月12日総務大臣が長岡市と川口町の廃置分合を官報で告示した。したがって、3月31日合併で、新長岡市が誕生する。以上である。次に、子どもが行った各種事務事業の取扱いについてである。教育委員会分野で61項目、福祉・保健分野で31項目、合計92項目について記載をしている。具体的項目について各課から説明を行う。教育総務課は防犯ベル配布事業についてであるが、川口町では、小学校入学時に防犯ベルを配布しているが、これは合併時に廃止する。廃止後はボランティア等による防犯対策の充実策を講ずるよう努めることとしている。新入学児童お祝い品贈呈は、川口町では紅白の饅頭をお祝い品として公費から支出していたが、合併時に廃止する。長岡市の実態として、何らかの形でお祝い品を出しているが、給食費又は学校後援会費からの支出が主である。

（武樋学務課長） 各種大会等出場者助成金は、川口町において中越大会以上に対し交通費の助成を行っているが、長岡市は北信越大会以上としているため、長岡市の制度に統一をする。学校給食管理運営事業は当分の間現行どおりとする。川口町は共同調理場で運営をしており、当分の間現行どおりで進めていく。

（腮尾学校教育課長） 全体的に、ゆるやかな合併で、時間をかけて統一を行っていく前提がある。特に人の配置については急激な統一は避けてほしいと要望がある。具体的には、英語教育推進事業がある。但し書きがあるが、平成24年7月を目途となっている。これは小学校に新しいALTを採用したばかりで、その方が平成24年7月までの雇用期間となっている。その後統一する。バス利用校外学習については統一を行うが、スクールバス等の利用を考慮し経過措置を設ける。特別支援教育、教育補助員について、平成22年度は現行どおりとし、現在採用している方は継続して雇用する。二学期制については、過去の合併の際にもおおむね1年をかけて保護者説明を丁寧に行ってきた。先日、教職員には二学期制の説明を行った。保護者には新年度説明を考えている。よって22年度までは現行どおりとし、23年度から二学期制としたいと考えている。

(矢沢子ども家庭課長) 川口町の子育て支援については、手厚い事業をしている。その中で、子育て支援事業としておむつ券の支給を行っているが、21年度に新規事業として2歳までの乳幼児がいる家庭に、月3,000円おむつ・ミルクを買うための支給券を支給している。これは、川口町にある2店舗のみ利用できるものである。川口町と協議を行い、21年度の新規事業でもあるため、22年度限りとし、その後は廃止する。不妊治療費助成事業については、県内統一的に夫婦で所得730万未満の夫婦に治療費を助成しているが、長岡市は所得を超える方に、独自で助成をしている。川口町には独自の制度がないため、実施をすることで統一する。成人式の開催は、当分の間現行どおりとし、川口町は例年8月14日のお盆に開催していたが、22年度は以前から要望のあったゴールデンウィークに開催する。長岡市地域等と同様5月2日に開催する。対象人数は65、6人。

(若月保育課長) 川口町には公立保育園が2つある。これ以外の私立や幼稚園はない。基本的には長岡市とかわりはないため、統一を行う。その中で通園バスについては、すべての地域含めて24年度を目途に新しい基準を作り統一する。

(葦澤中央公民館長) 川口町公民館は愛称「生涯学習センター」として運営を行っている。合併後、川口公民館として引き継ぎ、あわせて10ある分館を引き継ぐ。これによって中央公民館、10地区館、85分館すべて96館の公民館となる。利用手続きは長岡市に統一することとして調整している。利用料金は長岡市を参考基準として算定している。川口町では社会登録団体は2年間半額としていたが、長岡市は社会登録団体、2年ごとの更新があるが、資格を持っていれば無料とする。

(小野田中央図書館長) 歴史的公文書、古文書の収集は長岡市同様に行っている。収集の仕方については、文書資料室のやり方に統一をする。図書サービスについては、川口町には、町立図書館がある。町立図書館については、文化会館の図書コーナーとして運営し、図書館としては廃止する。図書館としては、米百俵号の運行を行うことで対応する。米百俵号は、保育園2園、小学校を回る。本の取次ぎ所も設置する。また団体貸出を行う。

(山屋科学博物館長) 川口町には歴史民俗資料館が、川口町立文化会館3階にある。これは、合併後も引き続き同じ場所で展示を行う。文化財関係はすべて引き継ぎ、市の文化財とする。川口町には、国指定遺跡があり、1万5千年前の旧石器時代の、日

本を代表する遺跡である。現在農地として耕している方がいるが、いずれは公園として整備したいと話している。

(山岸教育センター所長) 川口町では教育相談を教育長が行っているが、長岡市の制度に統一する。

(押見教育総務課長) 小・中学校、及び保育園の状況を説明する。小・中学校についてはそれぞれ1校である。川口小学校、13学級うち特別支援学級3、児童数264人である。川口中学校、6学級うち特別支援学級2、生徒数129人である。保育園は、東川口保育園、定員110人、児童数、昨年4月1日現在は99人である。西川口保育園、定員50人、児童数、昨年4月1日現在32人である。続いて、教育委員会の今後のスケジュールについて、説明する。川口町との合併に関わる部分で、2月定例会に合併に関わる条例の制定、一部改正等について審議していただく予定である。現在12本条例の申し出が予定されている。3月定例会で合併関係規則の制定、一部改正を審議していただく予定である。2月下旬から3月中旬にかけて川口町の教育委員との情報交換会、懇談会を開催予定である。事務の引継ぎ式については、3月31日の合併後20日以内に行いたい。川口町教育長が懸案事項等をまとめ、市教育長に引継ぎを行う。

(大橋委員長) 質疑、質問はないか。

(加藤教育長) まず、特別支援教室の種類を聞かせてほしい。それから、川口町の組織、機構図があるが、3月31日以降の新市の機構図についてはどうなるのか、今と同じように川口支所ができて、地域振興課教育支援係ができるということか。

(押見教育総務課長) 地域振興課の教育支援係になる。

(加藤教育長) 福祉から社会教育まですべて教育支援係で行うのか。

(若月保育課長) 福祉、保健指導、保険係については、支所の市民生活課になり、学校教育、社会教育については、地域振興課教育支援係になる。

(加藤教育長) 成人式について、8月に行っていたものを、5月のゴールデンウィークに開催と説明があったが、「当分の間現行どおり」という表記でいいのか。

(矢沢子ども家庭課長) 長岡市として統一的に行うのではなく、地域ごとにやっていくという意味で現行どおりとしている。5月に行うのは、川口町で以前から話しに

出ていた。

(加藤教育長) 長岡市は介助員、教育補助員を配置しているが、指導助手とはどういうものか。

(腮尾学校教育課長) 実際には指導助手はいない。介助員と考えてほしい。

(加藤教育長) 防犯ベルについて、廃止後はボランティア等における防犯対策の充実とあるが、これは長岡市でいう 60 小学校区に設置させてもらっているセーフティパトロールの移行と考えていいのか。

(腮尾学校教育課長) セーフティパトロールについては設置する方向で協議している。ただ、4月すぐかどうか今は未定である。

(加藤教育長) ベル配布は廃止し、セーフティパトロールはできていないだと、サービス低下になってしまう。きちんと4月からの体制を整えてほしい。徒歩で通う子どももいるのか。

(武樋学務課長) 距離による。近い子どもは徒歩と考える。

(大橋委員長) 2月から3月にかけての情報交換会については、私たちが参加して行うということか。

(押見教育総務課長) そうである。

(加藤教育長) 情報交換会のねらいについては、安心してもらうための計画であるようだ。教育長が非常に心配している。きっと教育委員もそうであろう。

(腮尾学校教育課長) 先ほど教育長から質問のあった事項について、回答する。小学校の特別支援学級のうち、ひとつが知的障害4名、自閉症情緒障害5名、弱視1名の3つの学級である。中学校については、知的障害4名、自閉症情緒障害2名の2学級である。

(大橋委員長) 他に質疑、質問がないようなので、次に、平成21年度第2回長岡市栃尾美術館協議会報告について、事務局の説明を求める。

(小野田中央図書館長) 平成21年11月6日に第2回栃尾美術館協議会を開催した。会議内容は、まず報告事項として21年度4月から10月末までに実施した事業について報告した。協議事項として1点目が、平成22年度事業計画について説明し意見を行った。22年度企画点については、「手まり展」、「大山治郎所蔵コレクション展」、「ミッフィー展」、「ながおかのこども作品展」であるが、それについて意見をいただいた。

手まり展については面白い企画。栃尾の大切な伝統であり、栃尾手まり祭と連携して入館者を増やす方法を考えてほしいとの意見をいただいた。2点目は美術館の運営方針の見直しについて意見をいただいた。美術館の運営方針は合併時の方針をそのまま使い、ふるさと美術館としてやってきており、その中でグレードの高い展覧会を目指していた。市内に県立美術館があるなかで、栃尾美術館のあり方をもう一度考え直そうと見直し案を検討した。見直し案として「人々が集い、人々に親しまれる美術館」、「市民が参画する美術館」、「市民の鑑賞、体験学習としての美術館」の3点を目指す方向で魅力ある美術館の運営としたいと協議を行った。

(大橋委員長) 質疑、質問はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。他に協議報告はないか。

(大橋委員長) これをもって協議報告事項を終了する。

---

(大橋委員長) 本日は、定例会の前に教育センターを訪問した。訪問についての委員の皆さんの意見、感想はいかがか。

(中村委員) 教育センターは校長の辞令交付で入ったことはあるが、1階から5階すべて回って見たのは始めてで、いい施設で驚いた。あくまでも教育センターなので一般の方向けではないのが残念な気がしたが、プロを育てるという点では魅力ある施設である。教育相談について、日時が平日午前9時から午後5時までと限られていることを教育長が指摘された。今の時代のニーズ、相談をする側の立場で考えると、土日も相談できるよう融通をきかせ、相談をしたい人がすぐ行けるようになると、よりすばらしい施設になると思う。

(内藤委員) 平成元年に教育センターができた時、思い返すとPTAの研修を何度かしていた。当時、子どもが一生懸命勉強している時間帯に、つい大人は眠くなったと言ってしまいが、そういうことがないようにしっかりと研修しようと言っていたことを思い出した。研修や、教科書センターに行くことはあったが、2階より上に行ったことはなかったため、非常に参考になった。先生方がこのようないい施設で授業の前準備をすることができるのは、他にはないのでと教育長に聞いたところ「ある」とのことだったが、ただし一貫的になっているのは珍しいとのこと、すばらしいと

感じた。教育相談について、「敷居が高い」という言葉が何回もでてきた。相談時間も関係しているだろうし、「民間」じゃないことが相談しづらいのかもしれないと感じた。きめ細かい相談、対応を幼稚園、保育園、小・中学校までまたがって、さらにはその先の高校でも相談をする方もいるとの事で、懇切丁寧にやっていることがよくわかった。多くなっている相談が、行きしぶりとのこと。内容を聞くと、些細なことが解決できず行けない子が多いとのことであった。継続的に相談を行い、行けない子が減るといいし、保護者がそういったことを吸収してくれるといいし、そのあたりが今後の課題なのかと感じた。

（羽賀委員） 相談業務について、私も気になった。市民サービスという観点を大事にするとしたら、週末ないしは平日夜7時くらいまでがいいと思う。私も市民の方との会議を行う際、早い時間で6時半、中には7時以降ということがほとんど。イベント等を行う際は、平日より週末に行くほうが、3倍参加が増える。ということは、そこにニーズがあると思われるし、配慮いただけるとありがたい。市教育は義務教育にかかわることが多いが、最近気になるのが、義務教育は終わり、高校も中退をした子どもが、家庭内で孤立し、ひきこもりの状況になっていること。さらに、両親の高齢化にともない、そこがブラックホールになっていることが気になる。こういったところまで教育委員会でいろいろなことを考えていけたらと思う。

（加藤教育長） 2回所長をしているので言いづらい部分もある。パンフレットがセンターと教育相談が別れていた。なぜ分けるのか、分けないほうが金額的に低く抑えられるのではと思った。また、せっかく写真入れるのに、理科センターのパンフレットで理科実験をスーツでしている写真はいかがかと思う。もっとビジュアル的に訴える方法を考えなければいけない。平成元年にでき、21年目を迎えて空調含めてかなり故障が出てきている。毎年、修理をしながら運営をしているが、講義室等も狭くなってきている。幸町庁舎が教育委員会になったとき、講義室を確保しなければいけないのかなと思う。

（大橋委員長） 私も少しの間、お世話になった。21年目になるが、教育センターを設立させる時のエネルギー、長岡市が燃えるような勢いで立ち上げたと思う。その勢いと指導力、優秀な指導陣がいつもいることが、長岡市の誇りになってほしいと思っている。教育相談も、相談内容が多岐にわたっている。相談される先生方に、研修

する指導体制が必要ではないかと感じている。計画的に勉強してほしい。錬成塾は7年になるかと思うが、立派な成果を上げている。塾長が、気楽に接し、継続して応援しているとのことであった。とてもありがたいと感じた。やはり大事な施設であり、今後もがんばってほしい。

(大橋委員長) 他に意見、質問はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) これをもって本日の定例会を終了する。

---





会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員